

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

国学者伴信友が文化5（1808）年に作成した写本は東寺古文零聚と言ひ、小浜市立図書館に7冊が在る。

百合文書は、大利であり、有力権門であった寺院の文書であるから、古代後期から近世初期にかけての、寺院の諸行事、組織など宗教的意義を有する資料が豊富なことは言を俟たないが、巨大な本所（^{ほんじよ}莊園領主）として、宗教活動を支えた各種の莊園支配関係の資料が多いことで有名である。若狭国太良莊（小浜市）、播磨国矢野莊（赤穂市）、伊予国弓削島莊（愛媛県弓削町）などの莊園は夙に著名であり、これらを舞台とした数多くの優れた研究が生れている。弓削島は塩産地であり、中世日本にとっては希有の塩業関係史料を

残している。また、中世寺院は各種の僧団の合議によって運営されたが、その議事録である引付^{ひきつけ}の類が多数残っていることも特色であり、僧団会議の多数決制や持廻り議決法など興味のもたれるものがある。

東寺百合文書はその大部分の影写本が東京大学史料編纂所と京都大学文学部とにあるが、写本は影写であっても所詮＜写＞であって文書の原型を知るのは容易ではない。また東京大学史料編纂所では、「大日本古文書家わけ第十」として大正14年から本文書の刊行を続けているが、現在第6冊で、＜い～を＞の12函を収めるに過ぎない。なお、京都大学所蔵の分は「教王護国寺文書」10冊として刊行されている。

昭和59年度図書受入冊数調

種別 部局	購入図書			受贈・その他*			計		合計
	和漢書	洋書	計	和漢書	洋書	計	和漢書	洋書	
図書部	3,547	941	4,488	1,895	677	2,572	5,442	1,618	7,060
文学部	4,682	2,972	7,654	646	601	1,247	5,328	3,573	8,901
教育学部	478	462	940	185	187	372	663	649	1,312
法学部	1,259	2,572	3,831	415	179	594	1,674	2,751	4,425
経済学部	1,430	2,173	3,603	1,236	272	1,508	2,666	2,445	5,111
教養学部	4,264	3,678	7,942	34	515	549	4,298	4,193	8,491
情報学	6	5	11	-	-	-	6	5	11
川渡部	26	-	26	-	-	-	26	-	26
学生部	4	19	23	-	-	-	4	19	23
大蔵省	73	20	93	18	66	84	91	86	177
応用情報	14	30	44	-	-	-	14	30	44
サイク	33	35	68	10	163	173	43	198	241
農学研究	343	64	407	175	195	370	518	259	777
選科研究	40	156	196	120	319	439	160	475	635
速通研究	31	44	75	9	96	105	40	140	180
通非研究	178	210	388	39	221	260	217	431	648
水研究	81	140	221	136	491	627	217	631	848
医学分館	88	177	265	185	676	861	273	853	1,126
北青葉山分館	2,469	3,753	6,222	548	186	734	3,017	3,939	6,956
工学分館	818	1,224	2,042	2,477	7,402	9,879	3,295	8,626	11,921
農学分館	2,174	2,233	4,407	583	1,789	2,372	2,757	4,022	6,779
金研	1,224	288	1,512	236	1,278	1,514	1,460	1,566	3,026
	185	947	1,132	70	247	317	255	1,194	1,447
合計	23,447	22,143	45,590	9,017	15,560	24,577	32,464	37,703	70,169

*その他：雑件受入、管理換を含む。

文科系4学部・図書館受贈受入逐次刊行物 リスト（和）の作成について

逐次刊行物掛

国内の大学・研究機関で発行される紀要・研究報告類は、通常は市販されることが少なく、主に寄贈交換によって図書館や各学部へ送付されている。これらの寄贈雑誌は、特に人文・社会科学分野においては重要な研究発表の場となっており、将来的な利用を考慮し製本や整理を行ない保存されることになる。

しかし、その反面であまり利用されない雑誌も数多いのが現状である。また、交換先から各部局に送付される雑誌には重複しているものが多い。これらの雑誌を各部局がそれぞれ保存を行なうとすると、製本費や保存用の為のスペースは無視できないほど大きなものになる。実際、文科系4学部と書庫を共有する図書館では書庫の狭溢化が問題となっているが、各部局が無秩序に製本を行ない書庫に納めるとなるとこれに一層の拍車をかけることになってしまう。

こうしたことから図書館では、文科系4学部図書室と共同して昭和57年以来、寄贈されている雑誌のリストの作成及び改訂作業を行なうとともに、各雑誌ごとに責任部局を決定し分担保存（製本）を行なうように図っている。分担は、各学部に関連する主題領域ごとに設定し、複数主題にまたがる領域の雑誌については、個々に決定することとしている。なお、当然のことながら、この分担はあくまで利用頻度を念頭に置いたものであって、よく使われる雑誌を各部局毎に製本・保存（登録）を行なうことを妨げるものではない。

リストの改訂（追補）とこの分担決定は、年2

回行なうことになっており今後も継続する予定である。しかし、約3,000件のデータを手作業によって配列したり、リストを手書きすることはどうしてもミスが生じやすく、その上同じ作業をその都度繰り返さなければならない。そこで、作業をより簡便、的確に行なうために、パソコンを用いて簡略的なファイルを作成し、受入雑誌の変動に伴う書誌データ・所蔵部局データの追加・更新等の処理やリストのプリント・アウトを行なうことにした。（パソコンは、NEC N5200-05を使用し、ソフトウェアとしてNEC N5200-05上でのパッケージLANFILE2をそのまま用いている。）現在のところ一応の入力作業を完了し、現在各部局毎に校正を行なっている段階である。

このリスト作成は今年9月には作業を終え、文科系各部局図書室あて配布する予定であるが、参考までに、昭和60年7月現在の入力件数と重複の状況を以下に記すことにした。

なお、今後の課題として、全学の受贈雑誌データを作成・整備し受入雑誌全体のリスト化を行なうこと、現在概算要求を行なっている業務電算化に連結する形式でのファイル化や学術雑誌総合目録との書誌データの整合を図ることなどが挙げられるであろう。また、部局間での製本仕様の標準化（ガイドラインの作成）も考慮が必要と考えられる。

*記入総数 3,068 件

（内訳）

記入本体（受入雑誌種類数）2,352 件

参照記入 716 件

＊部局別内訳

図書館	1,406 件
文学部	353 件
教育学部	334 件
法学部	365 件
経済学部	651 件
のべ	3,109 件
	(重複指数 1.321)

＊重複の状況

1 部局のみ	1,625 件
2 部局重複	482 件
3 部局重複	137 件
4 部局重複	20 件
5 部局重複	7 件

＊重複受付タイトル（4 部局以上）

Artes Liberales／岩手大学人文社会学部

同志社アメリカ研究／同志社大学アメリカ研究所

彦根論叢、ガイダンス特集／滋賀大学経済学会

広島修大論集、人文編

法学／東北大学法学会

北星論集／北星学園大学文学部

人文学報／京都大学人文科学研究所

人文学報／東京都立大学人文学会

研究紀要／宮城工業高等専門学校

神戸大学教養部論集

舞鶴工業高等専門学校紀要

宮城教育大学紀要、第一分冊 人文社会科学

問題と研究／問題と研究出版（東京）

奈良教育大学紀要、人文・社会科学

大阪府立大学紀要、人文・社会科学

埼玉大学紀要、社会科学編

修道商学／広島修道大学商経学会

東北大学文学部年報

東北大学教育学部研究年報

東北大学教養部紀要

徳島大学教養部紀要、人文・社会科学紀要

徳島大学学芸紀要、社会科学／徳島大学教育学部

東京経大会誌

東洋文化研究所紀要／東京大学東洋文化研究所

山形大学紀要、社会科学

以上

「図書館業務電算化推進室」の設置について

本学図書館の電算化計画は、「東北大学附属図書館電算化計画検討委員会」によりすでに昭和57年9月から検討が開始され、同時に図書館職員によるワーキンググループが機械化のための基本設計及び業務分析と処理方法等について日常業務を行いながら調査検討を進めてきた。

今回、これまでに種々検討された結果をもとに、機械化実施の際に起る個々の業務上の問題を

具体的に把握し、それを解決するため標記の「推進室」を新たに設置した。本年6月よりすでにこれまで5回の会合が持たれている。

電算化の実施は図書館サービスの多様化、効率化を促進する反面、事務組織の再編や業務内容の再検討が必要となってくる。更に本学図書館は、着々と進展する「学術情報システム」においてその地区センター館の一つとして図書館情報処理シ

システムの早期実現を強力に推し進めることが期待されておりこの「推進室」に課せられた責務はきわめて大である。

図書館業務電算化推進室の設置について

(昭和60年6月4日制定)

(設置)

1. 東北大学における図書館業務の電算化を円滑に進めるために、本館に図書館業務電算化推進室(以下「推進室」という。)を置く。
2. 推進室は本館研修室に置く。

(構成)

3. 推進室は、以下の者を以って構成し、館長が委嘱する。
 - (1) 事務部長
 - (2) 各課長
 - (3) 図書館専門員

- (4) 調査研究室研究員(石垣)
- (5) 業務機械化ワーキンググループ各主査
- (6) 各業務担当者のなかから必要に応じて委嘱する者若干名

(任務)

4. 推進室の任務は以下のとおりとする。

- (1) 図書館業務電算化に係わる基本的な方針の検討及び策定
- (2) システム設計及びシステム稼動に至る具体的な諸準備

(室長)

5. 室長は事務部長とし推進室の業務を掌理し、各課長がこれを補佐する。

(会議)

6. 推進室の任務を遂行するため、必要に応じ構成員による会議を開催する。

(事務)

7. 推進室の運営に関する事務は、整理課長及び図書館専門員がこれに当る。

図書館業務機械化検討の状況(8)

昭和60年5月～7月

WG 連絡会議：第1回(5/28) 逐次刊行物書誌データ作成計画について、本年度の検討の進め方について

図書館業務電算化推進室会議：第1回(6/19) 図書館業務電算化今後の方針について、第2回(7/3) 閲覧サブシステムについて、第3回(7/18)、第4回(7/24) 閲覧サブシステムの初期データの作成について

図書館業務機械化掛長等懇談会：第14回(5/30)

60年度国立大学附属図書館事務部課長会議報告、逐次刊行物書誌データ作成計画について、第15回(6/28) 60年度国立大学図書館協議会総会研究集会等報告、第4回東京大学文献情報センターシンポジウム報告、漢籍電算処理研修(京都大学人文科学研究所)報告、図書館業務電算化推進室の設置について、第16回(7/26) 図書館情報大学専門公開講座「図書館トータルシステムの機械化」受講報告

東北大学記念資料室だより

○6月22日、本学開学記念日に前後する1週間、例年のとおり本室の展示会を附属図書館エントランスホールで開催した（6月21日～27日）。本年度は例年に比べて過去1年間に収集した記念資料が多かったのも、従来よりも過去の蓄積物からの展示を少くした。熱心な来館者は年々多くなるようで、着実に継続することが大切なことを痛感した。

○6月12日、本学電気通信研究所の中村助教授から依頼があり、本室所蔵の東北大学五十年史編纂に際し作製された「通研関係名誉教授座談会録音テープ」の一部分を、同研究所の創立五十周年記念式典の列席者への寄贈記念品として利用したく借用を申込んで来られた。昭和31年作製の同テープはぼつぼつ30年になるので、傷んだり弱ったりしていないかと心配であったが、全然その心配なしとのことで、相手はこの道の世界をリードした研究所でもあり、光栄に感じながらお貸したのであった。

○6月24日、本学法文学部昭和3年卒業の安西浩氏が夫人と共に来仙、法学部において講演を行ったが、宮田光雄法学部長の好意によって、本室の「来訪者芳名録」にサインをお願いした。「啐啄同機」（そったくどうき、卵から雛がかえるとき、親は外からくちばしでつつき子は内からつついて、それが期せずして同時に行われて殻がわれるの意。両者の間に間一髪をいれぬ気脈相通することの大切なことをいう。）と、みごとな筆蹟である。同氏は東京ガスの会長で工学博士、本学五十年記念の事業会に大いに協力された。天然ガス輸入への着眼とその率先実行は大きな功績であったと聞く。のも講演の題して「エネルギーの移り変り」という筆記録をも入手できた。

○6月26日、相馬寛吉教授（教養部）から「昭和21年天皇来学に際しての写真8枚ならびに同通路地図1枚」の御寄贈を受けた。キャビネ版の写真にみえる天皇はいずれも若々しく、七夕まつりをもって迎えた仙台の町はいたるところ瓦礫がころ

がっている。片平丁の正門から入って本部の前を左折し、金研に入って見学されたようである。金研では当時まだお元気だった本多光太郎元総長が説明に立っており、双方とも背広服で一切勲章は見えない。

○6月28日、加藤陸奥雄元本学学長（現宮城県美術館長）から、「尚仁会誌37」に掲載された随筆「弱肉強食」をいただいた。漢籍をふまえて動物生態学に論及される明快な文章、ありがたく読み、かつ保存させていただく。「尚仁会誌」とは、本学医学部第三内科の同窓会誌のよし。このような魅力的な刊行物は何とぞ接続して本室へ御寄贈賜わりたいものである。この機会に切にお願いする。

○6月30日、金沢規雄宮城教育大学教授は本学文学部国文学科の出身で、かねてから本学や記念資料室のために様々の好意的協力を提供されたが、このたびまた貴重な資料の寄贈を受けた。1つは本学出身の作家山田野理夫氏の雑誌『文学』に掲載した報告文「仙台時代の鲁迅」（1956）のリプリント。いま1つは自作の雑誌『花実』（1985）に掲載した論文「天は東北、山高く」（一）第二高等学校俳壇史一のリプリントである。

前者はさすがに『文学』に早い頃に載っただけあって沈着な筆で、「藤野先生」の背景周辺を記したもので、資料的価値は高いと思われる。

後者は二高出身の金沢教授がかねてより心をこめて資料を収集していた成果で、今後どれだけ続くかまことに興味深い連載である。二高には晩翠・梶牛のような大文学者があり、また大須賀乙字のような天下にきこえた俳人がありその一派の声名は高く、文学的みのりも相当のものがあつた。それを仙台文学史研究の第一人者である教授が手がけて行かれるのはまことにうれしいことである。第一回をみると、早くも虚子と碧梧桐との2人が二高生として一緒に暮したという話が出て来て、おどろかされてしまう。

○7月5日、本学医学部解剖学第三講座から刊行

された「森富教官退官記念 東北大学医学部解剖学第三講座・研究業績目録 1985.5」の寄贈を受けた。本年3月停年退官された森富教授は、森鷗外の令孫であって、血統を受けられたのであろう、文学的感性をゆたかに有せられ、かつ文学的表現力のあざやかなものをもっておられ、この書に収められた二三の随筆的文章はその詩藻をしのばせるに十分である。今後ともこのような作品をおりおりはものしていただきたく、この機会に旧知のよしみをもって、お礼と共にお願いしておきたい。それらの文を除いては全体の構成は堅格無比とでもいうべきか、アカデミズムの極致のような風体である。年表などは客観的なこと一字のゆるぎもゆるさず、この書が題して森富教官とよび教授とよばない点にもそれは偲ばれるであろう。

○7月10日、「新明正道ワイマール・ドイツの回想」1冊を、新明先生夫人新明綾様から御寄贈いただいた。新明先生は本学法文学部社会学講座の専任担当の初代教授で、戦前戦後を通じ日本の社会学界の指導者として活躍され、門下に多くの俊秀を育てられた。この書は先ごろ逝去された先生の御遺徳をしのぶ記念刊行物であって、生前数多く物せられた学術的著作とは多少違っている。先生の欧米留学は昭和4年3月から6年5月に及んだが折しもドイツはワイマール共和国からナチスに転ぜんとする時期であった。この書は当時のことを手控えとしてのこしておられた所を中心とし、その他学問的自伝のような文をそえて成っており、共に得難い貴重な内容である。御家族を愛し門下を愛された先生にふさわしい好個の出版物である。

展 示 会 報 告

案内でないのが残念であるが、例年になくユニークな展示会も行なわれたので、報告記事とする。

○明治前期における外国語辞書展

期間：昭和60年4月8日(月)～4月26日(金)

於 エントランス・ホール

前に行なった「江戸時代の外国語辞書展」(昭和58年)に続くものである。館蔵狩野文庫には非常に多くの資料が存するので、明治20年頃に線を引いたなかからの出陳である。

○レンゾ・ピアノ建築写真展

期間：6月10日(月)～6月19日(木)

於 大AV室

主催：仙台日伊協会

パリのポンピドーセンターの設計等で知られる、イタリアの現代建築の巨匠Renzo Piano氏の作品展である。80余点のパネルのほか、数点の模型も出陳され、研究者の目を惹きつけていた。

○創立78周年記念東北大学の歴史に関する資料展

期間：6月21日(金)～6月27日(木)

於 エントランス・ホール

主催：東北大学記念資料室

(内容は本紙記念資料室だより参照)



○第1回東北大学埋蔵文化財展

期間：7月1日(月)～7月13日(土)

於 エントランス・ホール

主催：東北大学埋蔵文化財調査委員会

本学で現在調査・発掘が続けられている、その成果の初公開である。青葉山出土の旧石器類と、川内地区仙台城二の丸跡から出土の陶片類(幕末期のものが中心)約100点が展示された。ふだんの館内では見られない興趣があり、見学者も多く好評であった。

(参考調査掛)

昭和59年度下半期文献複写実績

国立大学等図書館間で取扱われた文献複写の本学に於ける昭和59年度下半期（10月～3月）分実績は下記のとおりです。

区分 図書館名	受 付		依 頼	
	件 数	金 額	件 数	金 額
中 央 図 書 館	379 ^件 (184)	44,665 ^円 (206,365)	137 ^件 (240)	507,108 ^円 (231,712)
医 学 分 館	1,108 (634)	541,120 (285,865)	59 (230)	30,560 (91,555)
北 青 葉 山 分 館	353 (75)	250,325 (53,100)	95 (77)	66,195 (42,855)
工 学 分 館	376 (12)	170,670 (7,385)	137 (9)	68,235 (4,425)
農 学 分 館	89 (33)	38,450 (8,635)	32 (77)	14,825 (30,395)
合 計	2,305 (938)	1,415,230 (561,350)	460 (633)	686,923 (400,942)

(注) 表中の（）内は私費で外数を示す。

昭和59年度下半期（10月～3月）分文献複写受付および依頼国立大学図書館別実績は下記のとおりです。

区分 図書館名	受 付		区分 図書館名	依 頼	
	件 数	金 額		件 数	金 額
岩 大 図	65 ^件	41,390 ^円	東 大 図	26 ^件 (46)	66,848 ^円 (63,655)
広 大 図	20 (21)	38,710 (14,465)	一 橋 大 図	9 (37)	27,425 (39,492)
名 工 大 図	21	31,330	京 大 図	6 (21)	53,405 (25,185)
東 学 大 図	(18)	(15,680)	北 大 図	11 (11)	76,315 (6,650)
浜 医 大 図	16 (2)	1,830 (205)	神 大 図	10 (9)	73,120 (6,035)
山 形 大 図	15 (2)	16,115 (3,175)	名 大 図	7 (8)	55,075 (12,255)
新 大 図	5 (10)	3,205 (69,580)	九 大 図	5 (9)	24,360 (5,300)
上 教 大 図	3 (12)	1,535 (4,485)	筑 大 図	4 (9)	9,525 (9,155)
弘 前 大 図	14	4,525	広 大 図	3 (7)	10,455 (2,795)
北 大 図	5 (7)	19,530 (13,270)	福 島 大 図	1 (8)	3,985 (2,875)
そ の 他	215 (112)	256,495 (85,505)	そ の 他	55 (75)	106,595 (58,315)

(注) 表中の（）内は私費で外数を示す。

中央図書館受付および依頼件数の多い上位10の国立大学図書館を掲げた。

昭和59年度特別図書購入報告

特別図書購入費(文部省配分)によって、下記資料を購入し、本館に備付けましたので御利用下さい。

番号	図 書 資 料 名	巻 号	刊 年	備 考
1	八戸海運資料 船手御用留 文政10年 御用手形留 天保5年 船手御用留 安政7年 御用手形留 文久2年			古文書
2	Wall Paintings from Ancient Shrines in Central Asia. (中央アジア古代寺院壁画集成)		1983	全2巻
3	Sammlung Metzler. (メッツラー叢書)		1961～	
4	Scarron, P. Oeuvres. (スカロン著作集)	T. 1-7	1970	1786年版のプリント
5	Reallexikon für Antike und Christentum. (古代キリスト教大事典)	Bd. 6-12	1950	Bd. 5まで所蔵
6	幼児の教育 第2期 大正・昭和(戦前)編	21-44巻	1980	複刻版
7	Jahrbuch für Erziehungs-und Schulgeschichte. (教育史年報)	Bd. 1-10	1961～ 1970	東ドイツの教育学会の 機関誌
8	Le Contral Social. Revue Historique et Critique des Faits et des Idées. (フランス社会史・社会理論)	Vol. 1-12	1957～ 1968	
9	政友	14-44巻	1980～ 1981	複刻版
10	Annalen der Preussischen Innern Staatsverwaltung. (プロイセン内務行政年報)	Jg. 1-23	1817～ 1893	
11	Accountant. (会計)	Vol. 121- 137	1949～ 1957	
12	The Complete State Papers Domestic. Ser. 2. Part 1. Charles 1, 1625-27. (英国国事文書集成)		1984	
13	Early English Books. STC. II. (1641-1700) Unit 51-53. REEL NO. 1453-1516. (英国古書集成)		1984	UNIT. 50まで所蔵

☆ 永年勤務者の表彰 ☆

本学創立記念日にあたる6月22日(土)、記念講堂附設松下会館において、東北大学永年勤務者の表彰式が行われました。

本学に通算20年勤務した受彰者1人ひとりに学長から表彰状と記念品が授与されました。

本年は学長の祝辞に対して、本館総務課長及川三千男氏が受彰者を代表して答辞をのべました。

今回表彰された図書館の方々は、次のとおりです。

総務課長	及 川 三千男
総 務 課	山 影 恭 久
〃	男 澤 耕 司
整 理 課	渡 部 昌 子
医学分館	吉 川 文 子
農学分館	武 田 光 佳
庶務掛長	
会計掛長	
事務官	
〃	
図書掛長	

昭和60年度全国図書館大会（予告）

——第3分科会（大学図書館）を中心に——

全国図書館大会（日本図書館協会ほか主催）は、館種を超えた全国の図書館関係者が一堂に会して、図書館界の当面している課題について研究討議するとともに、相互の交流を図ることを目的としている。

本年度の大会は、きたる10月30日（水）から11月1日（金）まで、3日間にわたり、宮城県民会館を中心に仙台市内6会場で開催される。

本大会は、明治39年、帝国図書館（現国立国会図書館支部上野図書館）の開館を記念して第1回大会が開催されて以来、今年で71回目を数え、本

県で開催されるのは初めてである。

大会日程の概要は以下の通り。

第1日（10月30日）開会式、全体会
基調報告

記念講演「図書館情報化時代」

東北大学教授・東北大学電気通信研究所長
西澤 潤一

第2日（10月31日）分科会

次の館種別（第1～6分科会）及び課題別（第7～10分科会）にわかれて行われる。

分科会とテーマ

分科会	テーマ	分科会	テーマ
第1分科会 公共図書館	パネル討議 「戦後40年の公共図書館を考える ……課題と展望」	第6分科会 専門図書館	オンライン時代における一次資料 の流通を考える
第2分科会 公共図書館 (含公民館)	市町村における図書館づくりと公民 館図書室	第7分科会 図書館員教育	プロのライブラリアンに何を期待 するか—東アジアのライブラリア ンを中心に
第3分科会 大学図書館	大学図書館ネットワークの基盤整備 のために ……：地域協力と専門分野別協力	第8分科会 障害者サービス	障害者へのサービスと高齢者への サービス ……その接点を求めて
第4分科会 短大・高専図書館	パネル討議 「短期大学（含高専）における教育 の現状と図書館のありかた」	第9分科会 児童・青少年 サービス	これからの児童・青少年サービス を考える
第5分科会 学校図書館	生涯学習の時代に応える 学校図書館のあり方をさぐる	第10分科会 図書館と コンピュータ	図書館ネットワークの時代をむか えて

なお、第3分科会（大学図書館）の日程は以下の通り。（会場：宮城県美術館講堂）

1. 開 会 （9：30）

2. 挨拶

(1) 当番地区

東北大学附属図書館長 吉岡昭彦

(2) 日本図書館協会大学図書館部会

部会長 横浜国立大学附属図書館長 高野義郎

(3) 司会者

東北大学附属図書館事務部長 柿沼正男
東北工業大学附属図書館事務長 大森一彦

3. 基調講演 （10：00～11：00）

大学図書館ネットワークの基盤整備のために
—地域協力と専門分野別協力—

東北大学助教授 原田隆吉

質疑応答

4. パネルディスカッション（13：30～15：15）

(1) 発表「地域ネットワークについて」

富士大学附属図書館 鈴木嘉美

(2) 発表「専門分野別ネットワークについて」

福島県立医科大学附属図書館 本田 享

(3) 発表「総合目録作成における協力について」

東北大学附属図書館 高木 忠

質疑応答

第3日（11月1日）全体会、分科会報告、閉会式

東北大学附属図書館報「木遣子」

編集委員長 南館義孝 編集委員

発行人 柿沼正男 発行所

第10巻 第2号（通巻第38号）発行日 昭和60年8月31日

佐藤忠弘、小野和夫、佐藤正弘、及川恵美子

東北大学附属図書館 仙台市川内 電話 代表 22-1800 (2408)